

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470100666
法人名	(有)ヒューマン・ケア・ステーションみえ
事業所名	グループホーム こんぺいとう
所在地 (電話番号)	桑名市星見ヶ丘6丁目919番地 (電話) 0594-33-4131
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 10 月 22 日(水)

【情報提供票より】 (H20年9月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,500 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有(100,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(9月29日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	5 名
要介護5		要支援2	名
年齢	平均 87.3 歳	最低 81 歳	最高 102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	桑名病院 坂井橋クリニック 星見いとう歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の熱い思いで『こんぺいとう』と名付けられた地域と支えあう関係づくりのための工夫や家庭的な雰囲気が随所に見られるデイサービスを併設した2階建てのグループホームである。高齢者福祉・地域福祉に永年情熱を注いでいる代表者と経験豊富な管理者のもと職員も理念『ゆとりある人生をあなたらしく』を共有し、利用者の尊厳を尊重した支援がなされている。新鮮な魚や野菜などを使用した食事メニューは利用者の日々の喜びになっている。昼食時、102歳の利用者と若い職員との会話はとても楽しく、穏やかなものであった。利用者・職員・家族ともに仲が良く、家族や主治医の協力もありターミナルケアを実践され、和やかな雰囲気のもと、ゆとりのある優しい介護がなされている。誰もが自分らしく地域で暮らし続ける社会を目指してケアの拠点となるように活動されており、これから益々楽しい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善項目はなかったが、常に職員は問題意識を持ち利用者主体の支援を行なっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員ともに評価の意義を良く理解しており、今回の自己評価も全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現時点で九回の運営推進会議が開催され、近況報告や自然災害緊急時の対策などが話し合われている。議事録も整備されている。運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。これからも多くの方に呼びかけて定期的に開催し、サービス向上に活かしていくことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>少しでも家族が苦情・要望・意見などを言いやすいように利用者一人ひとりに担当職員を配置し、家族の訪問時にどんなことでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また運営推進会議に利用者家族の出席もあり、意見の吸い上げには努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者は永年、地域福祉に熱意をもって取り組んでおり、事業所の力を活かして地域貢献を行っている。自治会に加入し、地域清掃や防災訓練・夏祭りなどにも参加している。『子供SOS』を掲げるなど地域との連携も出来てきている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、一文字づつ書いたお習字でグループホームこんぺいどうの理念である「ゆとりある人生をあなたらしく」が共有スペースに掲げられている。	○	開所時より地域との関係性を重視している事業所である。地域との交流を意識した理念の文章化なども職員全員で検討されることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者・管理者・職員ともに「ゆとりある人生をあなたらしく」を共有し、理念の実践にむけて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地内にある公園などへの散歩時には挨拶を心がけており、自治会に入り、地域のイベントなどにも参加し地元の方々との交流に努めている。(子供SOS表示を掲げている。)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者・管理者・職員とも自己評価・外部評価の意義を理解し、評価を活かしてミーティング等で検討し、改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点で九回の運営推進会議を開催し、議事録も整備されている。近況報告や自然災害緊急時対策などが話し合われている。	○	運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。これからも多くの方がたに呼びかけて開催し、サービスの向上に活かしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、情報・意見の交換など密に連携をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。(代表者は市主催の介護関連講座講師や市民活動委員長を受託し、桑名市と連携をとっている。)		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は立替方式である。毎月、担当職員からの手紙に利用料明細や写真なども同封し、家族に個々に合わせた報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の多い事業所である。訪問時には担当職員などから声かけをして意見や不満などどんなことでも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この事業所の離職者は少ない。離職時には新人職員と1ヶ月間一緒にかかわり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者福祉・地域福祉に経験豊かな代表者や管理者がスーパーバイザーとして勉強会などを開催している。職員のキャリアや能力に応じた研修に参加し、研修内容はミーティングなどで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会などに参加し、勉強会や見学会を通じて交流を図っている。近くのグループホームとは災害時の協力体制を構築している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用待ちの段階から併設のデイサービスや訪問介護を利用して、家族と相談・協力を得ながら、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	代表者・管理者・職員ともに利用者一人ひとりに人生の先輩として尊敬の気持ちを失わずに接している。散歩時などにゆっくりと一緒に喜怒哀楽を共にする時間を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたらしく」を介護の基本にし、一人ひとりの思いや希望・暮らし方・意向の把握に努めている。(センター方式も部分的に活用している。)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が家族や主治医と話し合い、担当者とも生活の課題などを把握したうえで本人の思いを日々の暮らしに反映できる介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの心身の状況変化に応じてその都度チームで話し合い介護計画を作成している。変更時には家族の同意を得て職員にも周知を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望や状況に応じて通院等には柔軟な個別支援を行っている。隣接のデイサービスでの音楽療法への参加や馴染みの場所への外出の支援などを行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの主治医と信頼関係を築いている。またかかりつけ医とは昼夜を問わず相談できる環境であり、適切な診断や治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族の希望を確認の上、主治医とも相談してかかりつけ医・職員・家族の協力のもと支援している。(現在までに2名の方が終末期を事業所で過ごされている。)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに尊厳を大切にした言葉かけや対応を行っている。個人情報の保護についても良く理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念「・・・あなたらしく」を実践した暮らしの支援が日々行なわれている。職員間でも都合を優先するのではなく利用者一人ひとりに寄り添った支援の意思統一がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりの意欲や能力を引き出しながら食事の準備や片付けを一緒に行い、食事中も会話を楽しみながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の16時から18時に利用者の心身の状況やその日の気分、希望に合わせて、坪庭を有した明るい浴室での入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や、出来ること・得意なことなどを十分理解しており、それを活かした楽しみ事や出番を發揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出しにくい利用者にも裏庭にある寛ぎスペースで過ごしてもらったり、近くの公園でお茶をするなど、利用者の希望に応じて時間に関係なく支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	地域の協力体制もあり、夜間以外は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、不備な点などの見直しを行なっている。地域の避難訓練にも参加し、協力体制が得られるように働きかけている。(夜間想定避難訓練の予定もある。)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューをもとに季節の食材や近隣で収穫された果物など、バランスのよい献立を提供している。食事量や水分量は一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体の空調や換気は整備され、高齢者の生活に配慮が行き届いた共有空間である。季節の草花など随所に配置し、座り心地のよいソファや椅子が置かれ居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族も泊まれるスペースもある居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた物品を置き、本人の時間を大切に気持ちよく生活できるように工夫している。		